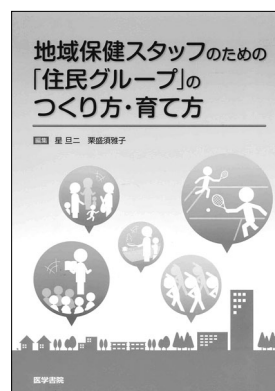


『地域保健スタッフのための 「住民グループ」のつくり方・育て方』 現場の経験知が 豊富に織り込まれた グループ支援の指南書

編集：星 旦二／栗盛須雅子／定価 2,625 円(本体 2,500 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



保健師には、日々の実務の積み重ねが地域住民の健康につながることを展望する力が求められる。しかし、それは、初学者や経験が浅い者にとって難しいものである。力量を伸ばすには、現場で先輩の活動に触れながらリアルに学ぶ体験が必要だが、現状では、後進に技を伝承する機会が減少している。本書には、そのような現状を補う「先人の知恵」が随所に織り込まれており、温かみのある実践的な内容で構成されている。よき先輩に出逢えたような読後感が残る 1 冊である。

本書は、主に行政の保健師が企画・事業化するグループ支援の方法について、柱となる考え方と方法論を提示したうえでテーマ別の具体例を紹介している。全章を通して簡潔な文章で、節ごとにポイントがまとめて記述されるなど、途中からでも読みやすく構成されているので、初学者やまとまった時間がとりにくい読者にも使いやすいだろう。

第 I 章は地域保健活動の理論と実践の間をつなぐ内容である。保健師と対象との出逢いから、グループの結成、自立、発展までの関わり方について段階を追って記述しており、その地域保健活動としての意義や、支援過程を通して得られる支援者自身の成長にも触れている。著者自身が現場から得た気づきや学びも挿入しながら、論を展開し読み手の関心を引き出して次章以降の実践編につなげている。

第 II 章は、第 I 章で述べられたグループ支援の段階と方法に沿いながら、「子育て」「介護予防」「生活習慣病予防」「患者・障害者のセルフヘルプ」など、地域保健活動のコアとなるテーマ別に、対象特性をふまえた具体的活動方法を紹介している。特に経験に支えられたリアルな事例が魅力である。経過を追ったナラティブな記述は、グループ支援のイメージ構築や教科書には書かれていないコツをつかむための生きた情報として役立つだろう。第 III 章の Q & A では、グループ支援の過程でよく遭遇する躓きや難局の乗り越え方が記述されており、実務の厳しさや現実的な課題と、それゆえに感じられるやりがいも伝わってくる。そして、最後の第 IV 章では先駆的事例を紹介し、保健活動のイノベーションを触発する発展的内容で結ばれている。

本書は、地域看護学教育の参考書として適しており、保健師として就業する学生には、卒後の実践や数年後の実習指導にも役立てられるだろう。第 I 章は机上の学習と実践の橋渡しに、第 II 章以降は現場における保健師の機能の可視化に有用である。保健師と十分に対話しなければ得られない「活動の含意」を理解するための教材として、また、授業では伝わりにくい保健師活動の奥深さを伝承する資料としても活用したい良書である。